



もんぶか かくだいじんしょう  
文部科学大臣賞

## ぼくと米<sup>こめ</sup>

宮城県蔵王町立宮小学校三年  
みやぎけんじょうおうちやうりつみや

加藤 賢太郎  
かとう けんたろう

ぼくは、夏休みにお父さんとお母さんと秋田県の男鹿半島へ行きました。そこで、大潟村干拓博物館に行き、やく六十年前、秋田県には、日本で二番目に大きな湖があったことを知りました。ぼくは、どうして大きな湖を田んぼにしちゃったのかなと思いました。答えは、二つありました。一つ目は、せんそうの後、食りようぶそく問題のかいけつです。二つ目は、こう水ひがいの多かった八郎潟の湖岸地を守るためです。博物館では、むかしの人たちが、たいへんな思いをしてみんなのお米を作っていたんだなとわかりました。つぎに、男鹿市ジオパーク学習センターに行き、しょくいんのきくちさんにたくさんお話を聞くことができました。博物館で見たトラクターが泥にはまっています。てんじを見て、ぼくは、なんだかおもしろくて、少し

わらってしまったけれど、八郎潟の湖の土は、とてもやわらかくて、その土地でのうぎようは、苦ろうのれんぞくだったそうです。今でも、やく六十年前に日本中から集まった人たちの子孫が、八郎潟でのうぎようをしています。学習センターの帰りに、海面やまわりの土地よりひくい干拓地内をいじするための水路を見ました。いろいろなちえやぎじゅつがあるそうです。

ぼくの住んでいる町にも田んぼがたくさんあります。ぼくは、今まで田んぼを見ても、田んぼにいる生きものにしかきようみがかかったです。でも、八郎潟に行くと、干拓やのうぎようの大へんさを知りました。田んぼには、れきしがあることが分かりました。今、ぼくが食べているごはんにも、きつとたくさんれのきしがあるのかなと思いました。

これからは、ごはんを食べるときは、気持ちをこめて、「いただきます。」をいいたいと思います。